



機能訓練指導員

太田剛史

今月の記事

機能訓練室

熊高生ボランティア

ユニット便り

リレーエッセイ

今月の愛の園

身体の残存機能保持のために

愛の園には機能訓練室があります。理学療法士の評価を基に、介護職員、看護職員、ケアマネジャーなど多職種が協働して個別の機能訓練計画を作成し、これに沿って機能訓練指導員がリハビリ訓練を行っています。機能訓練には片麻痺、関節拘縮、骨折後の障害、腰痛、下肢倦怠など、様々な入居者・利用者の方々が参加されています。

皆さんは「機能主義」という言葉をご存知でしょうか。これは、要援護者は自らの自発的な意志により問題を解決できる能力をもっているという前提で、援助者は援助機関の機能を提供し、要援護者はサービスの利用を選択して自己決定する過程が個別援助の機能であるという考え方で、機能訓練を行うための基礎となる考え方です。つまり機能訓練を受けるには、まずご本人に初期目標を立ててもらい、ご自分の意志で機能訓練に参加するか否かを決定していただきたいということです。

愛の園ではご自分で目標を立てていただく

ことが難しい方も多いのですが、例えば「自分の足で歩きたい」など、意欲的になっていただくことが大切だと考えています。私たちは目的を持って生活し行動しています。同じように入居者の皆さんがそれぞれの目標を達成することができるよう、訓練指導に励んでいます。

愛の園の入居者の方々は高齢です。年を重ねると若い頃のような自由な動きは制限されてきますが、現在持っている力を最大限に維持し活用して、快適で自律した生活を送っていただくことができるよう努めています。



利用者をマッサージする太田指導員



梅雨明けと共に熱中症が心配されます。「日陰」、「帽子」、「水分」で予防に努めましょう。

熊野高校家庭クラブ活動 喫茶ボランティア

～ちょボラで繋ぐ地域の絆～

熊野高校家庭科教諭 上村桂さん

「発達と保育」という授業の選択生徒が愛の園の喫茶ボランティアに参加し始めて約5年が過ぎました。副題の「ちょボラ」とは、日常でできるちょっとしたボランティアのことです。

このボランティアでは、高校生たちが高齢期の生活について学ぶことを含め、高齢者の方々と実際に触れ合うことで理解が深まり、高齢者と呼ばれる方々が一人ひとりまったく違うことを実感します。

また介護職員の方々、同じボランティアに参加されている方々とのコミュニケーションを通じて、公共性や連帯性などさらに多くのことを学んでいます。最初は戸惑っていた生徒たちも、時間が経つに連れて普段見せないようなやさしい表情に変わっていきます。

このボランティアで、語り合い交流をもつことによって、利用者の皆さんに元気をお分けすることができたら幸いです。そしてこの活動が生徒たちにとって自分自身の人生観を深める

良い機会になればと思っています。

日常の何気ないこのような「ちょボラ」が、地域の世代を超えた絆として築かれ、根付いていくことを願っています。



入居者の皆さんとお話しが弾む上村先生



車いすを押して入居者を誘導する生徒さん



ユニット便り 8ユニット



個性豊かな入居者の方々が1日の大半を過ごしておられるリビングでは、笑いあり、涙あり、時にはお互いを思いやるが故、衝突ありと華やかに、且つ穏やかに毎日を過ごして居られます。そんな日々の中で少しでも季節の移り変わりを感じていただけるよう、春には園の外に飛び出しお花見や蓬狩り、夏にはお盆のお供えにと言われる方の為、ユニット内



のテラスでお花を育てています。他にも入居者の皆さんに喜んでいただけるようにと、年間を通して色々なお花や野菜を育てています。

なかでもユニットリーダーのアイデアで、車椅子を利用されている方にも手が届くようにプランターの高さを調節し、そこで収穫していただいたネギでお好み焼きやたこ焼きを、また冷凍しておいた蓬を使って草餅をと、おやつ作りも楽しんでおられます。

体験していただいたことを写真に収めて後日拝見していると、人生の先輩方に対して失礼にあたるかもしれませんが、まるでジブリ映画の世界から飛び出したような癒しを与えて下さる方々です。そんな皆さんが穏やかに過ごしていただけるよう、職員一同努めてまいります。

リレーエッセイ(13) 「地域の紹介と絆」

ユニットリーダー

田上美穂

地域の老人会の班長をしている義母を手伝って3年目になります。この老人会の活動を少しお話したいと思います。

年間を通じてたくさんの取り組みをしている中で、何と言っても「ひょうたん」作りと「大賀ハス」の蓮田の管理が大きな活動です。地域の方から「今年のひょうたんの出来はもう一つやなあ」と班長会議の時に話がありましたが、写真のように立派に育っています。

その隣で蓮田いっぱい広がっている「大賀ハス」。今年の見頃は7月中旬から下旬にかけてですが、早朝が一番きれいに咲いているそうです。現時点ではこの写真のようにまだまだつぼみですが、このエッセイが皆さんの手元に届く頃には、たくさん咲いていると思います。犬2匹を連れての散歩の時に蓮田を訪れ、ハスの花の成長を楽しみに見えています。皆さんもぜひお訪ねください。

もうひとつの大切な活動は半世紀続いている「岡川の水」という会報の発行です。1年に2回発行し、内容は老人会活動のひとつま、最近のエピソードや地域への要望などです。今期は私も文章を書かせていただきました。

地域活動に参加させていただく中で、「絆」や「つながりの大切さ」、私自身が「地域に支えられている」という事を改めて感じています。

次回のリレーエッセイは厨房職員の志水利子さんへ依頼します。よろしく願います。

「キリストの愛を以って
互いに仕える」

社会福祉法人神愛会
特別養護老人ホーム愛の園

〒649-2103
和歌山県西牟婁郡上富田町
生馬 316-56

TEL (0739)47-1234

FAX (0739)47-4329

ainosono@shinai.or.jp

ホームページもご覧ください。

Web サイト アドレス:

<http://shinai.or.jp>



上富田町の田中神社横にあるひょうたん棚と蓮田

7~8月の愛の園

- 11(木) やまびこ会
- 14(日) 日曜礼拝
- 16(火) ひまわり会
- 17(水) 不在者投票 手芸サークル
- 18(木) やまびこ会
- 19(金) 社協ボランティア来園
- 21(日) 日曜礼拝 おめかしクラブ
- 23(火) マリア会
- 24(水) 歯科診療
- 25(木) やまびこ会
- 28(日) 日曜礼拝

- 1(木) やまびこ会
- 4(日) 日曜礼拝 夏祭り
- 6(火) マリア会

編集者から

経済連携協定(EPA)に基づく介護福祉士候補者の受け入れ事業で来日し、和歌山県内の特別養護老人ホームで働いていたインドネシア出身の女性2人がこの春、国家試験に合格したという記事を読みました。

2009年11月に来日し、全体の研修で日本語を学んだ後、それぞれの施設に就職し、国家試験にむけて励まし合い、EPAでは県内初の合格者になったとのこと。

宗教や文化の違いに戸惑いながらも日本語を学び、仕事をしながら日本語で出題される国家資格を取得することがどれだけ大変なことか、頭が下がります。(1)